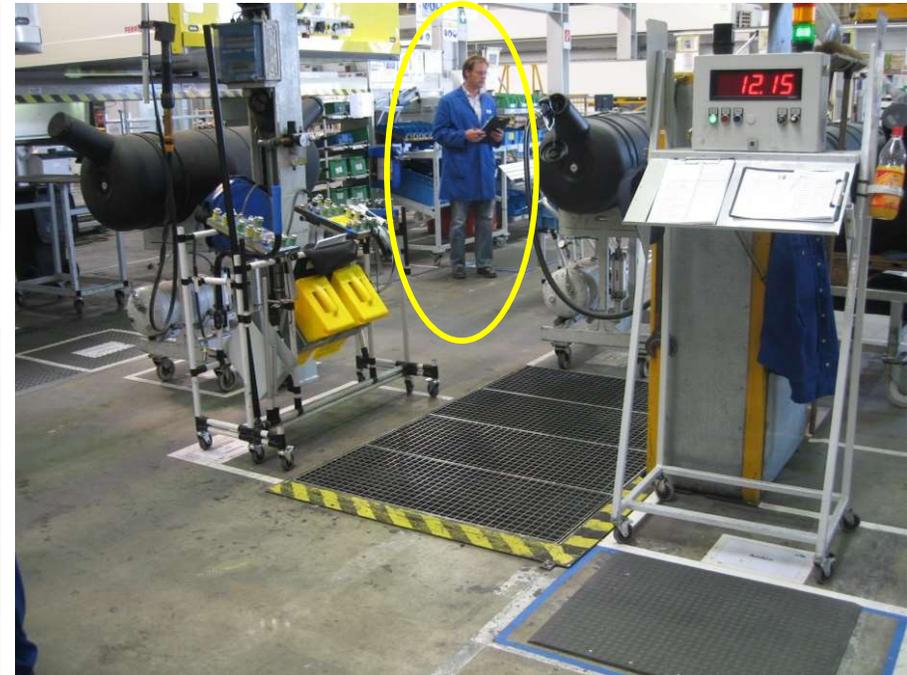


# 観察の仕方

## 1) 観察の仕方

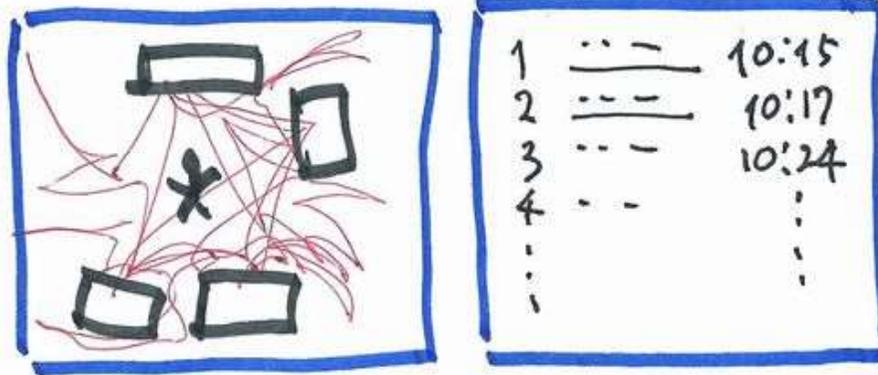
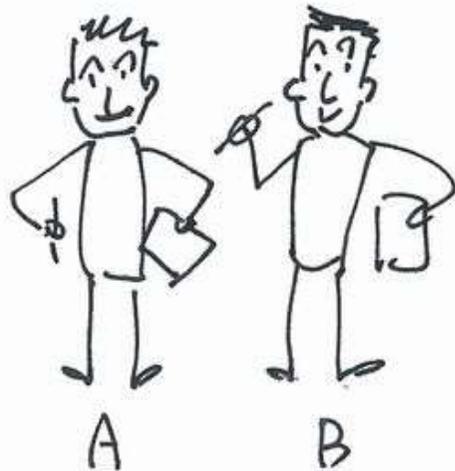
具体的なやり方を、現場観察の仕方を紹介します。

2から6人で、1人のオペレータを観察して問題を発見する方法です。  
参考資料で紹介します。黄色い○の人が、観察者です。



# 観察の仕方

## 2) 観察の仕方のつづき



### 手順1: 関係者に知らせる

- ① 観察する作業現場のリーダーと被観察者に事前に主旨説明をして協力してもらう

### 手順2: 用具を準備する

- ① 一人の被観察者に対して2人一組で観察をする
- ② 画板とA4用紙、ペン、ストップウォッチを用意する

### 手順3: 役割分担を決める

- ① 導線図を描く人は、その現場を知らない人でもよい。紙に簡単なレイアウト図を予め描いておく
- ② 時間観察の人は、作業内容をある程度知った人が望ましい。最初は、秒単位でなくとも分単位が良い

### 手順4: 観察開始時に被観察者をリラックスさせる

- ① いつも通りの作業をして下さいと促し、観察者からの質問をしないことを約束して観察を始める

# 観察の仕方

## 3) 観察の仕方のつづき



しゃべらない



アイディアを考げない

### 手順5: チームに分かれて観察をする

- ①時間は、原則として60分。段取り替えなどは、1回が終了するまで行う。数分など短い場合は、何度も繰り返して60分間観察する
  - ②導線図は、被観察者の歩いた軌跡をペンでなぞる。気づいたことや問題があれば余白にメモしていく
  - ③時間観察は、作業内容と時間もしくは時刻を併記する。同様に気づきなどをメモする
  - ④必要により写真を撮っておく。ビデオでもOK
  - ⑤トイレ以外は、同行して棚や台車、工具箱のなかの状態まで観察します
- 自らの気づきや問題の発見がとても大切です。目標を20件以上と掲げましょう。  
→コツは、すぐメモすることです

# 観察の仕方

- 意識しないことには、何も見えないものです。  
その意識することは、7つありさらに説明します。

1. **安全**（不安全行動、不遵守行動、危険個所など）
2. **作業姿勢**（しゃがみ作業、疲れる作業、振り向き作業、重筋作業など）
3. **品質**（不良や手直し確認、過剰品質も問題です）
4. **作業環境**（5S、モノの置き方【定位置、定方向、定量、定品】、仕掛、在庫など）
5. **ムダ**（見えるムダ、見えないムダ＋気づかないムダ）
6. **技術的な問題**（加工しにくい、組立しづらい、精度が出ない、設計的に無理）
7. **組織的な問題**（標準やルールがない、あっても現状と違うことはないか？）

- ➡ 1時間で1人20件以上問題点を、発見するという目標も大切です。  
多い人は、50件以上も発見できるようになります。
- ◆ **用紙に、この7項目を記述してから観察をします。**

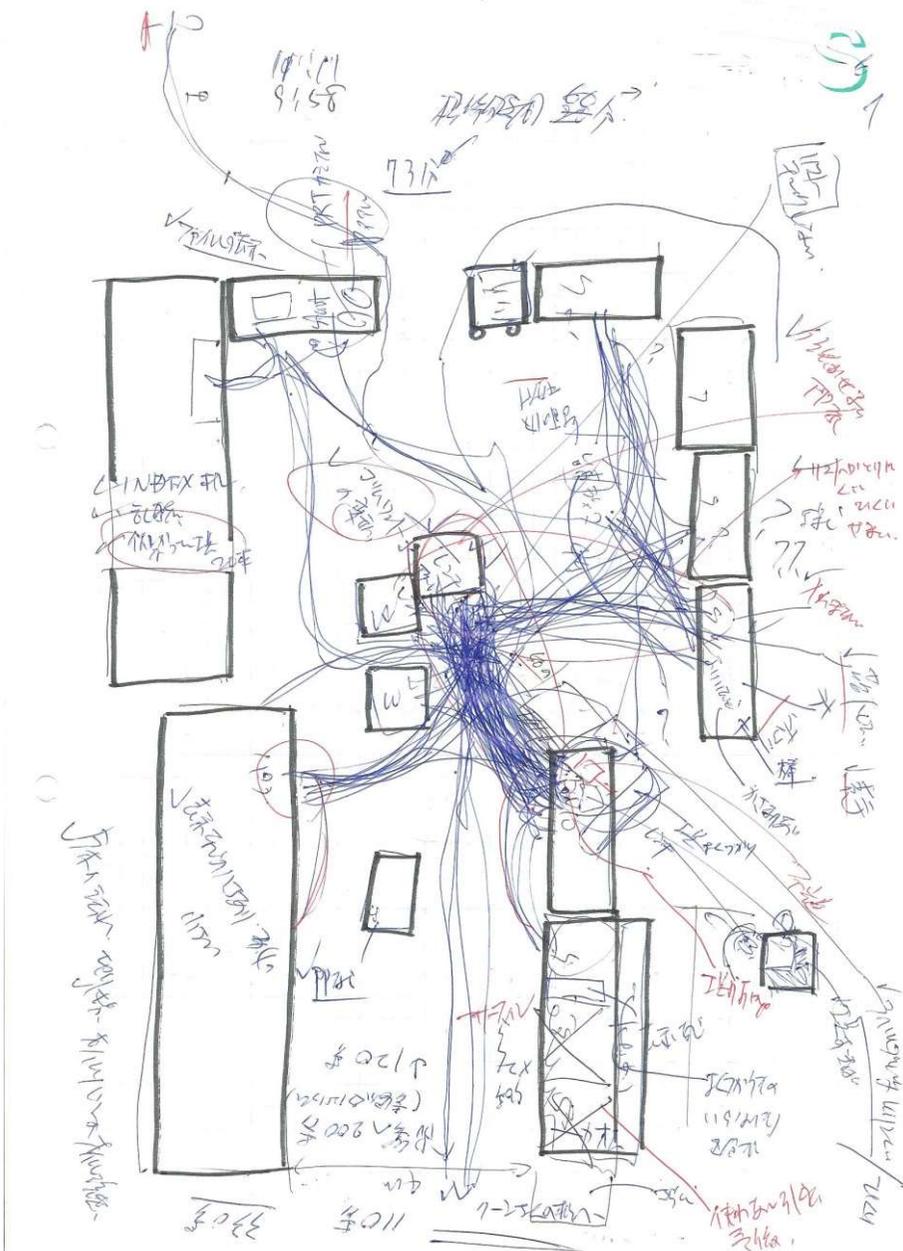
- 意識して観察すると、見えなかったことや気づけなかったことが見えてくるようになります。全員でそれを共有化することで、さらに見えるようになります

導線図の事例です。きづいたことをメモして、すぐに次の問題やムダを探します

## 導線図の事例

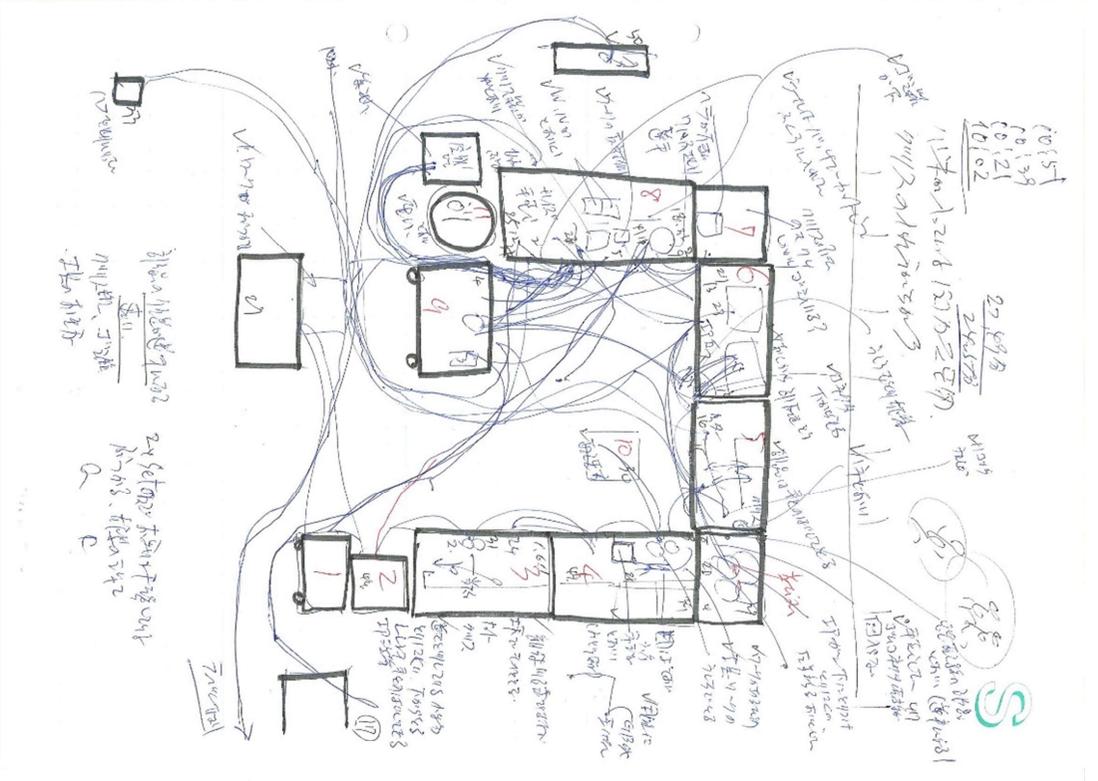
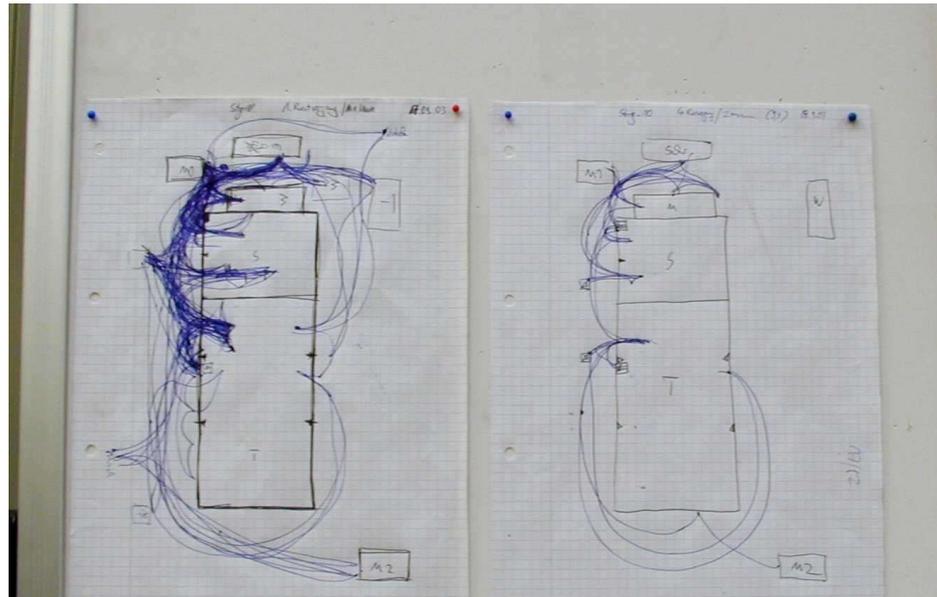


下は、組合せ票です。ガントチャートです



導線図の事例です。きづいたことをメモして、すぐに次の問題やムダを探します

下は、組合せ票です。ガントチャートです



*Einführung eines Standard's*  
*Vorher*

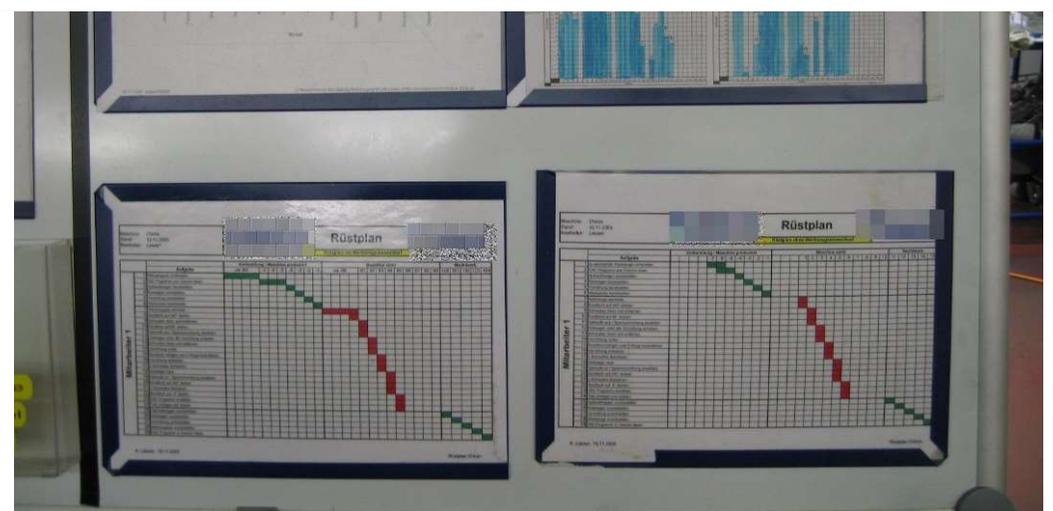
Beobachter	Beobachtet	Beobachtet	Beobachtet	Beobachtet

*Nachher durch Optimierung und klarer Aufgabenverteilung*

Beobachter	Beobachtet	Beobachtet	Beobachtet	Beobachtet

Standardarbeitsblatt  
Arbeitsbeginn Sonntagnacht

Arbeitsstation	Arbeitszeit	Arbeitszeit	Arbeitszeit	Arbeitszeit



# 観察の仕方

## 4) 観察の仕方のつづき



- 一人ずつ発表し、途中アイデアを考えない！  
各人が自分なりに書くことが大切です

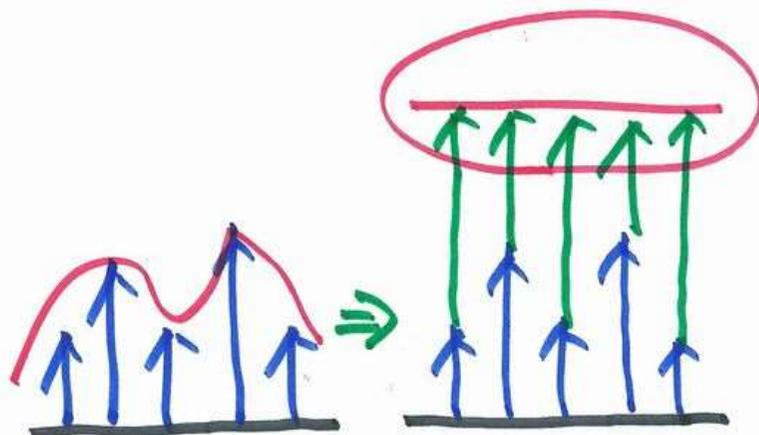
### 手順6: 問題点をまとめる

- ①60分の観察が終わったら、共有化する
- ②一人ずつ1件ずつ気づきや問題点を発表する。  
その時に、状況や状態を名詞＋動詞で表現する。  
進行役が白板等書くと同時に全員が、自分のメモにも自分なりに書いていく
- ③リレー方式で順番に発表する。  
なくなればパスしてもかまいません。  
できるだけ被観察者も参加してもらいます。  
過去の問題点や当日現れなかった異常なども情報として教えてもらいます
- ⑤時間の目安は、60分です。  
進行役は、時間を管理します。特に途中アイデアの話になると、時間がすぐに過ぎてしまいます



# 観察の仕方

## 5) 観察の仕方のつづき



### 手順7:改善案をまとめる

①現場観察と問題点のまとめの2時間の間に、情報が共有化できます。その時に、気づきや問題点の認識レベルがバラバラだったものが、この時にはレベルが揃いかつ高いレベルになっています。

つまり、見えなかった全体像が見えてくるようになります

②改善案を出していきます。

やり方は、個別に対応する方法、カテゴリ一別つまり安全、作業姿勢、5Sなどにまとめる方法があります。やりやすい方で実施してください

③短期(2から3日間)のできるものと1週間以上かかるものに大別します。

役割分担などを決めてすぐ実践します

☆今までの経験ですが、80~90%は、費用の掛からない改善でした。案ずるよりも生むがごとしは、ここでも適用されます。さあ、やってみましょう